

小樽市中小企業振興会議【諮問に対する議論と今後の進め方】

「取り組むべき視点」

- ①産学官金連携による共同研究やものづくりなどの支援
- ②若者に魅力のある環境づくりや地元定着、生産性向上による人手不足への対応
- ③地域特性を生かしたビジネスの創出支援と事業承継
- ④魅力ある小樽製品の開発と国内外への販路開拓・拡大
- ⑤観光消費の地域内循環

【諮問】 産学官金等の連携による実効性のある中小企業支援の仕組みづくりについて

（仮称）中小企業支援センター（案）について

「取り組むべき視点」としてまとめた課題に対応していくための総合的な支援センターの設置案を提示

- ・「取り組むべき視点」として整理した課題を包含する取組として、様々な課題に対応する総合的な支援窓口（以下、「センター」と言う。）の必要性については概ね共通した認識だが、既存の類似した支援機能については整理が必要。
- ・全ての課題にセンター長が中心となってワンストップで対応するのは難しいので、センターに求める役割を絞ったほうが良い。
- ・センターという新しいものを作るのではなく、現在ある機能を充実させるべき。
- ・それぞれの機関が実施している支援機能をセンターに集約するだけでは期待したものにならない。どういう機能を持たせるのかを明確にしておく必要がある。
- ・今の支援で何が不足しているのか、既存の支援する仕組みが機能しているのかを明確にした上で、何を支援すればよいのか、センターができることでその支援が機能するようになるのか、方向性を整理する必要がある。

（仮称）中小企業支援センターのスキーム（案）について

前回のセンターの役割を絞ったほうがよいとの意見を踏まえ、新たなスキーム案を提示

- ・センターの機能として、まずは売上げ増に特化させるとの提案に対しては、課題は企業ごとに違うため、売上げ増に特化するなどひとつだけ取り上げるのは、消費が減少していく中では困難であり現実的ではない。
- ・様々な課題がつながっており、その課題にセンターが対応するとしていたが、売上げ増に特化したことが後ろ向きという印象を受ける。
- ・センターの案を具体化する前に事業者の実態を掴むための調査が必要ではないか。
- ・他都市の成功事例が小樽に当てはまるのか。
- ・センターで多くの課題に取り組むのは困難であるため販路の拡大が中心になるが、一部の企業の売上げを伸ばしても大半は赤字であるため雇用にはつながらない。これではうまくいかない。
- ・センターの枠組みより先に、「取り組むべき視点」を掘り下げ、取組として機能していない部分を整理して、そこをどう対応していくのかを議論すべき。
- ・大学や金融機関が既に行っている取組を活用できるような仕組みを考えていく必要がある。
- ・センターをワンストップ窓口とし、ここを拠点に様々な解決策の提案などを行い、センターのみでは対応できないものを金融機関などと連携するという仕組みが良い。

今後の進め方（案）

- ・「取り組むべき視点」として5つのテーマに整理し、これらを総合的に解決するために「（仮称）小樽市中小企業支援センター」（以下、「総合支援センター」という。）を提案した。
- ・「取り組むべき視点」に対応するため、様々な課題に総合的に対応する支援窓口が必要ということについては概ね共有した認識であった。
- ・総合支援センターの議論を進めるに当たり、一例として、全国的に実績を上げているビズ式支援を参考にしながら、必要となる機能などについて議論したが、ビズを中心としたセンター論についての議論に終始したことから、各委員が想定していたセンターのイメージとは相違が生じることとなった。
- ・この会議は「取り組むべき視点」としてまとめた5つのテーマの解決に向けた取組を検討する場であるため、今一度「取り組むべき視点」の各項目について既存の支援機能の有効性などを確認しながら、必要となる支援について整理していく必要がある。
- ・こうした議論を踏まえた上で、総合支援センターを含めた支援の仕組みをどのように組み立てていくのかを、先進事例などを参考に検討していく必要がある。
- ・前回は「地域特性を生かしたビジネスの創出と事業承継」というテーマに対し、「創業支援」と「事業承継」について現在の支援策などについて意見交換を行った。
- ・今後、議論が必要なテーマは以下のとおり。（カッコ内は会議の実施時期（予定））
 - 産学官金連携による共同研究やものづくりなどの支援（R3.2）
 - 若者に魅力のある環境づくりや地元定着、生産性向上による人手不足への対応（R3.2）
 - 魅力ある小樽産品の開発と国内外への販路開拓・拡大（R3.5）
 - 観光消費の地域内循環（R3.5）
 - 「取り組むべき視点」を解決していくための仕組みについて（R3.8）